

乾式貯蔵施設の敷地内設置は みなさんの声で止められる！

福井県のみなさまへ

末田 一秀

メッセージ

関電が原発設置時に約束した「ごみは福井県外へ」が揺らいでいます。満杯に近いプール以外に使用済み核燃料を容器に詰めて(＝乾式貯蔵)原発敷地内に貯蔵しようとしているからです。運び出す先とされる青森県六ヶ所再処理工場は27回操業延期を繰り返し、原子力規制委員会の認可審査が遅延して28回目の延期が避けられない状況になってきました。再処理工場へ運ぶまでに県外に中間貯蔵する計画も、立地場所が決まりません。運び出す先はありません。今なら、知事が同意しなければ敷地内貯蔵の計画を止めることができます。知事の判断は有権者である皆さんの声で決まります。

一方で、県は廃炉原発の金属をリサイクルする集中処理工場の建設に向けて新会社を設立しました。ここで発生する低レベル放射性廃棄物について、埋設施設を持つ青森県は受け入れ対象外と説明しています。

県是である「ごみは県外」はどうなるのでしょうか。

プロフィール

1978年創刊の「はんげんぱつ新聞」3代目編集長。市民グループ「核のごみキャンペーン関西」メンバー。原子力発電に反対する福井県民会議が2019年に設置した「廃炉問題に関する検討委員会」の一員として提言をまとめる。元大阪府環境行政担当職員。
主な著書「どうする原発のごみ」「地方自治のあり方と原子力」「関西電力 原発マネースキャンダル」など

